

議案外質問から

9月14日から19日の本会議では、28人の議員が市政全般に対する議案外質問を行い、市長はじめ市当局の考えをいただきました。
主な質問・答弁の概要は次のとおりです。(発言順に記載してあります。)

9月14日(木曜日)

くにまさ 直記議員(民主)

市立図書館におけるICタグシステムの導入

質問 市民の利便性向上と効率的な書籍管理に向け、市立図書館にICタグシステムの導入を進めるべきでは。

答弁 利用者に寄り添ったサービスが展開できると考えており、基幹システムの改修等の課題を踏まえ、導入を段階的に進めることも含めて検討する。(教育長)

鈴木 孝之議員(減税)

電動キックボード等に関する交通ルールの周知啓発

質問 電動キックボード等を安全に利用してもらうため、どのように交通ルールの周知を進めていくのか。

答弁 交通事故の発生を防止するため、交通ルールを正しく理解し守っていただけるよう、さまざまな機会を捉えて広報啓発に取り組むたい。(スポーツ市民局長)



中村 しゅうへい議員(公明)

ブックスタートの実施等による絵本の読み聞かせの促進

質問 乳児に絵本を配布するブックスタート等を実施し、幼少期における絵本の読み聞かせを促進する考えは。

答弁 図書館での乳児への絵本配布を検討するとともに乳幼児健診の配布冊子に読み聞かせの意義等を掲載し、絵本の読み聞かせを多くの家庭に広げたい。(教育長)



渡辺 やすのり議員(自民)

現在の県体育館周辺で確認された遺構の調査・保存

質問 現在の県体育館周辺で確認された遺構について、体育館の解体に先立ち、調査を積極的に進めるべきでは。

答弁 令和元年に確認された遺構は二之丸を構成する重要な要素の一つとして保存すべきであり、県等と連携し来年度にも調査を開始したい。(観光文化交流局長)



確認された遺構の写真

久野 美穂議員(民主)

松蔭地区の公園整備に関する問題点と今後の対応

質問 松蔭公園整備に関し、昭和22年の計画から76年が経過している。高齢になってから立ち退きを迫られる住民の気持ちに寄り添った対応をすべきでは。

答弁 長きにわたりご不便をおかけし申し訳ない。ご事情をしっかりと伺い丁寧に対応していく。(松雄副市長)

中川 あつし議員(減税)

災害時に有効な公衆無線LANの周知啓発

質問 災害時に有効な情報収集や伝達手段の一つとなる公衆無線LANについて、広く周知啓発を行っては。

答弁 公衆無線LANについて、今後、市公式ウェブサイトへの掲載や総合防災訓練等の機会を通じ、市民へのさらなる周知啓発に取り組む。(防災危機管理局長)

木下 優議員(公明)

依存症専門医療機関の確保に向けた取り組み

質問 依存症相談件数の増加を踏まえ、スタッフの配置に必要な初期費用等の補助など、市独自の支援を行い、依存症専門医療機関を早期に確保すべきでは。

答弁 依存症専門医療機関の確保に向け、初期費用の負担軽減を含めた支援を検討する。(健康福祉局長)

くずや 利枝議員(自民)

医療的ケア児に関する市民への周知啓発

質問 医療的ケア児の増加が見込まれる中、市民の理解を深めるため、さらなる周知啓発を進めるべきでは。

答弁 医療的ケア児の特性や必要な配慮等を広く知ってもらうことが必要であり、さまざまな手法を視野に入れ、来年度の実施に向け検討する。(子ども青少年局長)

大島 英勲議員(維新)

市立小学校の新たな運動・文化活動に関する成果指標

質問 市立小学校における新たな運動・文化活動に関し、検証委員会の提言から1年が経過しても成果指標の検討が進んでいないことの受け止めと今後の取り組みは。

答弁 指標を定めることは活動の充実必要と認識しており、速やかに成果指標を設定したい。(教育長)

森 ともお議員(民主)

熱田区役所南地区における再開発事業の検討状況

質問 熱田区役所南地区の再開発に関する機運の高まりを捉え、開発計画の事業化を本格的に始動すべきでは。

答弁 隣接する名鉄神宮前駅の開発計画の進展やリニア開業により交流人口が増加する時期を見据え、事業化に向けた取り組みを進めたい。(住宅都市局長)

豊田 かおる議員(減税)

なごや子ども応援サポーター研修の全市拡大

質問 地域の方を対象に中区で開催した、なごや子ども応援サポーター研修は、地域での見守り活動に資する重要な取り組みであり、全市に拡大すべきでは。

答弁 今後、この取り組みを全市に拡大するとともに、継続して実施できるよう検討したい。(教育長)

月森 たくや議員(公明)

本市の学校環境における樹木マネジメントの取り組み

質問 学校の樹木について、児童生徒の安全のため適切な維持管理に配慮した樹木マネジメントを進めては。

答弁 緑政土木局や樹木医といった専門家の協力を得ながら調査に着手し、管理基準を作成するなど継続的な樹木のマネジメントができるよう考えたい。(教育長)

吉田 茂議員(自民)

公共交通空白地の交通課題解決に向けた新しい移動手段

質問 公共交通空白地における交通課題の解決のため、地域ニーズに対応できる新しい移動手段が必要では。

答弁 AIオンデマンド交通などの新しい移動手段を有力な選択肢と考えており、候補地を選定し、できる限り早期に実証実験に取り組むたい。(住宅都市局長)

岡田 ゆき子議員(共産)

日本語指導が必要な児童生徒への日本語教育の機会拡充

質問 初期の日本語指導が必要な児童生徒のため、初期日本語集中教室を各区1クラス程度に増設すべきでは。

答弁 人材と空き教室を確保する必要があり全行政区への設置は困難だが、今後は対面指導を効果的に行える設置場所や指導方法等を調査、研究する。(教育長)

塚本 つよし議員(民主)

受動喫煙防止に向けた市たばこ税の積極的な活用

質問 たばこ税の受動喫煙対策への活用を促す総務省の事務連絡を受け取りながら、何も対応していないのでは。

答弁 総務省の事務連絡については健康福祉局とも内容を共有しており、その内容を踏まえて全体の事業展開がなされると思っている。(財政局長)

佐藤 ゆうこ議員(減税)

斎場における有価物を含んだ残灰の売却益と使途の公表

質問 火葬後に残った有価物を含む残灰について、その売却益と使途を市ウェブサイト等で公表すべきでは。

答弁 残灰を売却して得た収入の状況や大切に活用させていただいていること等について、市ウェブサイトや広報なごやに掲載していく。(健康福祉局長)

辻 まさお議員(公明)

国民健康保険特定健康診査の受診率向上に向けた方策

質問 特定検診の受診率向上に向け、案内封筒にそっと後押しする「ナッジ理論」を盛り込んだ記載をしたり、スマートフォンのショートメッセージを活用しては。

答弁 未受診者の興味を引く文言や、新たな手法としてショートメッセージの活用を検討する。(健康福祉局長)

藤沢 ちあき議員(自民)

ネイチャーポジティブの実現に向けた決意の表明

質問 生物多様性の損失を止め、反転させるための緊急行動をとるネイチャーポジティブの実現に向けて積極的に取り組む決意を宣言し、各主体をリードする考えは。

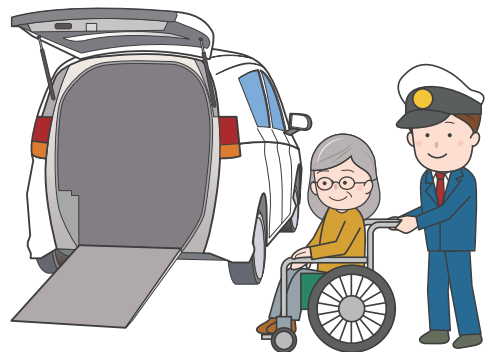
答弁 積極的に取り組む決意を表明することは意義深く、宣言することを含め前向きに検討する。(環境局長)

おくむら 文悟議員(民主)

重度障害者福祉タクシー利用券の利便性向上

質問 福祉タクシー利用券について、来年度からより利用しやすくなるよう1回の乗車で複数枚の利用ができるようになるが、利用上限枚数についての考えは。

答弁 一般タクシーで10枚、リフト付きは5枚と考えているが障害者の意見も伺い検討する。(健康福祉局長)



インターネット録画中継のご案内

本会議での質問などや委員会での議論の様子は、名古屋市ウェブサイト(市会情報)からパソコンやスマートフォンなどで録画中継を視聴できます。ぜひ、ご視聴ください。

名古屋市会

検索



パソコン



スマートフォン



タブレット端末

9月19日(火曜日)

永井 ゆり議員(減税)

入院中の子どもに付き添う家族への支援

質問 入院中の子どもに付き添う家族を支援する施策について、より一層周知、啓発をする必要があるのでは。

答弁 緊急保育等の支援策についてHP等で周知しているが、当事者が自分事と捉えられるよう具体的な状況を示すなど工夫した広報を検討する。(子ども青少年局長)

さかい 大輔議員(公明)

ヤングケアラーのための相談窓口の設置

質問 支援を必要とするヤングケアラーのニーズに的確に対応するため、相談窓口を速やかに設置すべきでは。

答弁 ヤングケアラーが気軽に相談できる環境づくりが重要であると考えており、相談窓口を含め、相談支援の在り方について鋭意検討したい。(子ども青少年局長)

上村 みちよ議員(自民)

公社賃貸住宅における子育て世帯への支援施策

質問 子育て世帯への支援として、住宅供給公社と連携し、公社賃貸住宅における子育て世帯に特化した家賃減額について、本市が支援すべきでは。

答弁 子育て世帯の負担軽減を図るため、公社賃貸住宅の家賃減額に対する支援を検討する。(住宅都市局長)

日比 美咲議員(民主)

骨髄ドナーの休暇制度および公欠制度の導入促進

質問 ドナーが骨髄等を提供しやすくなるよう、企業や大学へドナー休暇・公欠制度導入に向け働きかけては。

答弁 経済団体等の機関誌への記事の掲載や大学に対しての依頼文の発出等により、ドナー休暇・公欠制度の導入を積極的に働きかける。(健康福祉局長)

大村 光子議員(減税)

市立高等学校での昼食提供

質問 子育てをするお母さん、お父さんの応援のため、市立高校において民間事業者を活用し昼食を提供しては。

答弁 既に校内でパン等を販売しているが、民間を活用した弁当配送も含めさまざまな取り組みを周知し、各校が生徒のニーズを捉え実施できると考える。(教育長)

岩本 たかひろ議員(自民)

メタバースを活用した不登校の児童生徒支援

質問 メタバースを活用し、家から出られない子どもに対しオンラインで学習、相談等の支援を行う考えは。

答弁 令和6年度にはメタバースを活用した実証事業に取り組み、オンラインを活用した不登校の児童生徒への支援を一層推進できるよう検討したい。(教育長)

ふじた 和秀議員(自民)

ワークダイバーシティの実現に向けた実証実験の実施

質問 生きづらさや働きづらさの解消を目指すワークダイバーシティの実現に向け、まずは具体的施策として就労支援の実証実験に本市も果敢に取り組むべきでは。

答弁 働く意欲のある方を就労につなげる意義深い事業であり、来年度より実施する。(健康福祉局長)

西川 ひさし議員(自民)

病児・病後児保育の広域連携

質問 体調不良の子どもを近隣市町村が病児・病後児保育施設で相互に受け入れる広域連携についての考えは。

答弁 まずは広域連携について前向きな回答を得た自治体と相互利用が行えるよう協議を行いながら、できる限り早期の開始を目指し取り組む。(子ども青少年局長)

浅井 正仁議員(自民)

昼間の時間帯における救急体制のさらなる強化

質問 救急需要は昨年をさらに上回る勢いであり、今年度運用を開始した救急隊のBlue EIGHTについて、救急需要の実態を踏まえて増隊するなどの考えは。

答弁 救急需要に迅速かつ確実に対応できるよう来年度の救急隊の増隊を視野に入れて検討する。(消防局長)

個人質疑から

9月14日の本会議では、提出議案に対する個人質疑を行いました。
主な質問・答弁の概要は次のとおりです。

岡田 ゆき子議員(共産)

総合リハビリテーションセンター 附属病院の市大病院化

質問 リハビリテーションセンター附属病院の市大病院化により、医療と福祉の一体的な連携はどうなるのか。

答弁 運営主体は別れるが、医療から福祉への切れ目ない支援を地域に拡大できるよう市立大学や地域の医療機関等と連携し、支援強化に取り組む。(健康福祉局長)